

2025.5.20
No.67

UNIRITA ユーザ会ホームページ
<https://www.uniritauser.jp/>



UNIRITA Users' Group

CONTENTS

- 02 第41回UNIRITAユーザシンポジウム「開催報告」
- 04 シンポジウムハイライト
- 06 シンポジウム表彰結果報告
- 08 最優秀活動賞受賞グループインタビュー
- 09 シンポジウムアンケート結果・お客様の声ご紹介
- 10 2025年度研究部会 グループ一覧
- 12 年間スケジュール
- 13 役員・代表・副代表のご紹介
- 14 組織と活動について
- 15 会員企業一覧

ユニリタ ユーザ会 ニュース





情報交換会



後藤会長



情報交換会

第41回 UNIRITA ユーザシンポジウム開催報告

2025年3月6日～8日
びわ湖大津プリンスホテル

第41回 UNIRITA ユーザシンポジウムを、びわ湖大津プリンスホテルにて開催いたしました。

開催地を実に8年ぶりに移し、新たなステージへ踏み出す一歩となりました。今回のテーマである「翔る-かける-」には、新しい事への挑戦・未来への飛躍という思いが込められており、これまでに築き上げてきた知識や経験を土台に、お客様一人ひとりが新たなステージに飛び立つ機会や、さらなる成長と発展を目指すことを狙いとし、テーマにかけたイベントや講演をご用意させていただきました。

会場には、139社 505名(ユニリタグループ含む)と多くの方にご参加いただき、大

盛況のうちに開催することができました。ご参加いただいた皆様、そしてご協賛いただきました企業の皆様に、心より感謝申し上げます。

UNIRITA ユーザ会定時総会はユーザシンポジウムに合わせてあらかじめWeb総会として開催し、各会員企業様の登録代表者の皆様にご投票をお願いしました。皆様のご協力のおかげで無事議案が承認されましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

1日目の全体会では、後藤会長による開会のご挨拶と、オープニングセッションとして、Gigi株式会社の今井了介氏と、ユニリタ北野裕行による、「利他で紡ぐ未来」

と題した熱いセッションが行われました。その後、パートナー様によるパートナーセッション3社、ユニリタグループ製品の事例発表8社、ユニリタグループセッション第一部・第二部と、各会場ではテーマに沿ったプレゼンテーションが行われ、多くの方が熱心に聴講していました。

また、会場には株式会社ロッテ様、カンロ株式会社様からたくさんのお菓子をご提供いただき、多くのお客様が喜んで手にされている様子が見受けられました。

情報交換会では、今回のテーマである「翔る」にかけたイベントを実施し、多くの方々が積極的に交流を深め、活気に満ちた場となっていました。



パートナーブース



PR タイム



カンロ様からの協賛品



ロッテ様からの協賛品



オープニングセッション



今井了介氏（オープニングセッション）



事例発表の皆様



Hom Bahmanyar 氏（マネジメントセッション）



小椋久美子氏（講演会）



研究発表

2日目は、23グループの研究発表およびマネージャ層の研究グループによるパネルディスカッション、Hom Bahmanyar氏による「AIによる継続的なセキュリティ検証の進化」と題したマネジメントセッションが行われました。お昼の講演会では、元バトミントン日本代表選手の小椋久美子氏をお招きし、「失敗を成功に導く心の持ち方」というテーマで、自身の経験に基づいた、失敗から学ぶ考え方やモチベーションの保ち方について、非常に参考になるお話をいただきました。

表彰式では、特別ゲストとして荒牧陽子さんと松浦航大さんによる豪華なライブが繰り広げられました。またユーザ会の2025年度の新体制として、役員のご紹介を行い、幹事・代表・副代表の皆様にご登壇いただきました。そして目玉である研究発表の受賞式では、「IKOKO1 生成AIを活用した業務効率化」研究グループが今年度の最優秀活動賞に輝きました。他、優秀活動賞には3グループ、審査員特別賞には6グループの計10グループが入賞する結果となりました。（詳細はP.6-7をご参照ください。）

今回も多くの方々にご参加いただき、無事に終了できましたのは、ご参加いただいた皆様、パートナー様、事例発表企業様、協賛企業様のご支援のおかげです。誠にありがとうございました。



最優秀活動賞受賞グループ（表彰式）



表彰式



荒牧陽子氏、松浦航大氏（表彰式）

第42回 UNIRITA ユーザシンポジウムは2026年3月に開催予定です。プログラム等の詳細は12月頃に公開いたします。次回も多くの皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

第41回 UNIRITAユーザシンポジウムの様子をお伝えします！

シンポジウムハイライト

02



01 会場到着

JR 大津駅から送迎バスで移動して、びわ湖大津プリンスホテルに到着。大津の地で開催をするのは8年ぶりでしたので、久々に来られて懐かしさを感じる方、初めて来られる方、様々でした。



全体会

後藤会長のご挨拶でシンポジウムがスタートし、Gigi株式会社の今井了介氏をお招きして、オープニングセッションが行われました。

03



パートナーセッション・事例発表・ユニリタセッション・マネジメントセッション

1日目はパートナーセッション3社、事例発表8社、ユニリタセッションが開催されました。また2日目には、Hom Bahmanyar氏によるマネジメントセッションを開催しました。様々なテーマで行われ、どの発表も参加者の皆様が真剣な表情で聴講されていました。



04 情報交換会

シンポジウムの今回のテーマ「翔る」のもと、会場中を翔けながら新しいお客様との繋がりを広げて頂く意味を込めて、リストバンドを利用したコミュニケーションイベントを実施しました。初めてお会いされた方同士のコミュニケーションも円滑に図られ、情報交換会は盛大に終えることができました。

05

研究発表

1年間の研究活動の集大成となる研究発表です。会場全体にはりつめた緊張感の中で、これまで発表練習を重ねてきた各研究グループの発表者が、研究内容や研究に対する熱い思いを表現しました。





講演会

元バドミントン日本代表選手、「オグシオ」コンビこと小椋久美子氏をお招きし、「失敗を成功に導く心の持ち方」について、経験談から学ぶ熱いメッセージをいただきました。



表彰式

発表を終えた開放感に包まれながら美味しい料理をいただき、特別ゲストの荒牧陽子さんと松浦航大さんによるライブショーで会場全体が盛り上がりました。
最優秀活動賞を受賞した IKOKO1 研究グループの皆様、本当にありがとうございます！

事例発表紹介

京都電子計算株式会社
大谷 猛仁 様
棚瀬 真衣 様

LMISによる大規模
サポートサイト構築
～Cloud PARKの事例から～



株式会社 安藤・間
庄司 雅彦 様
DX VISION 2030
に向けた取組



株式会社日本標準
小沼 武士 様

「今までどおり」
からの脱却
-業務改善運動の象徴に-



富士フィルムメディカル株式会社
千々木 宏一 様

ITベンダー/Sier必見！
SBOM管理とサイバー
セキュリティの最前線



三菱総研DCS株式会社
浅川 悦男 様
大野 佑弥 様

迅速な障害対応と
運用効率向上を実現する
「スマート運用
プラットフォーム」



株式会社サーラビジネス
ソリューションズ
清水 章男 様

ID管理の未来を築く
～システム刷新で実現する
効率化への道～



株式会社山櫻
前田 陽平 様

老舗紙製品メーカーの
カスタマーサクセス
導入事例
-カスタマーサポートから
カスタマーサクセスへの転換-



福島県三春町
大貫 健一 様
大内 幸博 様

町の新交通「こまシェア」
開発奮闘記
～三春町役場の
交通課題解決への挑戦～



※掲載されている情報は、発表当時のものとなります。

第41回UNIRITAユーザシンポジウム 表彰結果報告

九州情報活用・システム運用研究部会

最優秀活動賞

IKOK01:生成AIを活用した業務効率化

AI使えばよかろうもん!

～『教える』も『学ぶ』も、生成AIがサクッとお手伝い～



高崎 太一 [株式会社インフォセンス]★
松岡 征矢 [西鉄情報システム株式会社]○
平島 歌鈴 [西鉄情報システム株式会社]●
重野 晴耀 [西鉄情報システム株式会社]
諸富 快人 [西鉄情報システム株式会社]
田中 結 [西鉄情報システム株式会社]

佐藤 正直 [株式会社リンクレア]
高司 晃宏 [AJS株式会社]
岩政 健太郎 [リコーITソリューションズ株式会社]
松尾 圭昭 [西部ガス情報システム株式会社]
馬込 秀紀 [株式会社ユニタプラス]■
石崎 毅 [株式会社ユニタプラス]▲

受賞コメント

生成AIという難しい分野について、メンバ全員で試行錯誤した結果、素晴らしい賞をいただくことができ、とても嬉しかったです。この活動で得たものを、これからの社会人生活に活かしていきたいと思います。

西日本合同研究部会

優秀活動賞

GW06:コミュニケーションの深化がもたらす 心理的安全性とチーム生産性への効果

14時10分だよ!上司も部下も全員集合!

～心理的安全性・生産性を求めて～



織田 裕介 [南海システムソリューションズ株式会社]★
吉村 海里 [コベルシステム株式会社]○
井澤 博美 [小浦石油株式会社]
喜多 泉水 [株式会社コーユービジネス]
大村 恵実 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
内倉 由美香 [株式会社CACオルビス]●
高橋 範紹 [大和リース株式会社]
黒田 浩子 [株式会社ユニタプラス]■
有城 貢樹 [株式会社ユニタプラス]▲

受賞コメント

1年間の研究成果を気合いの鉢巻姿で発表できたことは一生の思い出になりました。また、優秀賞という素晴らしい評価をいただき大変嬉しく思います。ご指導・ご協力いただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

東日本情報活用研究部会

優秀活動賞

IE02:生成AIの新たな活用法①

AIネイティブ時代の到来: 振り返ればそこにAI



小宮 勇太 [旭化成アマダス株式会社]★●
鈴木 英満 [株式会社テング]○●
渡邊 汰一 [リコージャパン株式会社]
周 慧 [カゴメ株式会社]
篠崎 大地 [出光興産株式会社]
小川 恭平 [株式会社リンクレア]
松井 優 [興安計装株式会社]
丸 信之助 [大樹生命テクノロジー株式会社]
清水 達也 [株式会社ユニリタ]■
小村 和希 [株式会社ユニリタ]▲

受賞コメント

メンバ全員がユーザ会初参加という中、1年間の研究活動が評価され大変光栄です!多くの学びと出会いに恵まれた一年だったと思います。私たちの発表をご清聴いただいた皆様には心から感謝いたします!

東日本情報活用研究部会

優秀活動賞

IE04: BizDevOpsとデザイン思考

「共感」こそ組織を超えるカギ!?

～未来を創るデザイン思考～



小泉 岳人 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]★
田丸 恵里菜 [カゴメ株式会社]○●
本間 亮介 [NSW株式会社]
志村 魁人 [旭化成アマダス株式会社]
土屋 琢実 [株式会社インフォテック朝日]●
北元 陸弥 [株式会社エムアンドシーシステム]●
相良 愛 [TOPPANホールディングス株式会社]
熊田 彩希 [株式会社DXコンサルティング]●
黒川 菜緒 [株式会社ユニリタ]■
中島 瑠伽 [株式会社ユニリタ]▲

受賞コメント

「BizDevOpsとデザイン思考」をテーマに、共感を大切に仲良く楽しく取り組んだ成果が実り、優秀活動賞を受賞することができました。ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます!

※掲載情報は受賞時点でのものとなります。

中部情報活用研究部会

審査員特別賞

IN01:業務へのAI活用
時代はAI仮想上司!
 ～「お時間よろしいですか」はもういらない?～



- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| 今西 千彩 [株式会社トヨタシステムズ]★ | 異 貴彦 [株式会社クエスト] |
| 佐藤 優奈 [リコージャパン株式会社]○ | 藤原 さくら [TDIシステムサービス株式会社] |
| 山田 拓末 [株式会社豊通システム] | 加藤 壮 [愛三工業株式会社] |
| 岡田 菜友子 [株式会社グリア] | 武田 悟 [株式会社ユニリタ]■ |
| JIN SUNBONG [株式会社リンクレア] | 杉本 拓人 [株式会社ユニリタ]▲ |
| 清水 亮輔 [生活協同組合連合会東海コープ事業連合] | |

受賞コメント 一年間の研究の成果をこのような形で評価いただけたこと、光栄でございます。私たち自身、研究を通して様々な学びを得ることができました。研究会に参加できたこと、特別賞をいただけたこと、大変嬉しく思います。

東日本情報活用研究部会

審査員特別賞

IE03:生成AIの新たな活用法②
生成AIの利用から活用へのステップアップ
 ～生成AIと共に働く新たな付き合い方～



- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 勝田 竜市 [株式会社クエスト]★ | 伊坂 香織 [株式会社リンクレア] |
| 矢野 俊輔 [株式会社リコロ]○ | 岡山 健次 [東亜建設工業株式会社]■ |
| 熊澤 優大 [リコージャパン株式会社] | 藤井 新 [株式会社アイネテクノロジーズ]■ |
| 坂井 智亮 [旭化成ホームズ株式会社] | 山崎 裕昭 [株式会社ユニリタ]■ |
| 菅井 孝輔 [アイシーエクスプレス株式会社] | 王 曉偉 [株式会社ユニリタ]▲ |
| 鎌田 由貴 [大樹生命アイテクノロジー株式会社]■ | |

受賞コメント 審査員特別賞をいただけたことを嬉しく思います。AIをツールとして使うのではなく、共に成長するパートナーとして接することでAIの可能性が広がります。我々の研究成果が皆様のAI活用の一助になれば幸いです。

西日本合同研究部会

審査員特別賞

GW03:デジタル技術を利用した自動化システムの市民化
非IT人材の素質を芽吹かせよう
 ～システム内製化を促す極意～



- | | |
|---------------------|----------------------|
| 森 勇登 [株式会社オペテージ]★ | 堀 敏李那 [株式会社KYOSO]■ |
| 嶋田 知騎 [ダイキン工業株式会社]○ | 寺井 健 [第一工業製薬株式会社] |
| 石川 漢子 [株式会社K-BIT] | 北方 一騎 [株式会社ユニリタプラス]■ |
| 川西 慧 [日本精線株式会社] | 二見 徳人 [株式会社ユニリタプラス]▲ |

受賞コメント 審査員特別賞を頂き、大変光栄です。多様な視点で議論を重ね、試行錯誤した経験を糧に、それぞれの場で市民開発を広めていきます。未来の市民開発者が困らない世の中になることを願いながら、精進してまいります!

東日本情報活用研究部会

審査員特別賞

IE05:世代とダイバーシティ
見えない壁を体験で超える!
 ～ダイバーシティの力を引き出す3つのアプローチ～



- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 大井 博貴 [NSW株式会社]★ | 椎名 麻美 [コスモエコパワー株式会社] |
| 眞仁田 晃一 [出光興産株式会社]○ | 宮田 夏帆 [旭化成アマダ株式会社] |
| 池田 剛 [AGSアロサービス株式会社] | 山田 慶行 [CTCシステムマネジメント株式会社]■ |
| 今野 佑夏 [株式会社リンクレア] | 崎崎 若菜 [株式会社ユニリタ]■ |
| 市石 舜也 [株式会社ソフトウェア・パートナー] | 三浦 樹莉 [株式会社ユニリタ]▲ |

受賞コメント 審査員特別賞を受賞することができても嬉しいです。これは疑似体験を通じてダイバーシティへの理解を深める発表ができた結果かなと思います。発表を聞いていただいた皆様、ありがとうございました。

東日本情報活用研究部会

審査員特別賞

IE07:今から始めるDX①
デジタルで課題解決できる人材を!
 ～事例で分かるDXの落とし穴～



- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 久世 千寿宝 [株式会社データ総研]★ | 白田 光汰 [株式会社リンクレア] |
| 若林 諒 [エース株式会社]○ | 村松 大二郎 [株式会社エムアンドシーシステム] |
| 数田 裕司 [リコージャパン株式会社] | 湯川 瑠那 [第一生命テクノクロス株式会社] |
| 柴 克典 [MS&ADシステムズ株式会社] | 指田 亮太郎 [株式会社ユニリタ]■ |
| 庄司 淳 [株式会社無限] | 羽鳥 孝士郎 [株式会社ユニリタ]▲ |

受賞コメント 約一年間、チーム一丸となってDXについて研究を重ねていき、その結果として審査員特別賞という形で実を結べたこと、大変嬉しく思います! 発表をご清聴頂いた皆様、ありがとうございました。

東日本システム運用研究部会

審査員特別賞

OE03:生成AIを活用した最適なシステム運用とは
ストップ属人化
 ～生成AIで運用業務改善～



- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 川名 耶麻斗 [ソニー生命保険株式会社]★ | 草島 直樹 [大樹生命アイテクノロジー株式会社] |
| 松永 修 [日版テックード株式会社]○ | 立山 凜平 [大樹生命アイテクノロジー株式会社]■ |
| 石川 和博 [株式会社アイネット] | 山田 亘太 [株式会社ユニリタ]■ |
| 岩佐 雅彦 [出光興産株式会社] | 蔡 展澤 [株式会社ユニリタ]▲ |
| 岡本 隆 [出光興産株式会社]■ | |

受賞コメント 入賞、大変喜ばしい限りです。メンバー同、ユーザ会で得られた学び・繋がりや糧に今後もシステム運用に貢献したいと考えております。ご清聴・評価していただきました皆様、ありがとうございました。

※掲載情報は受賞時点でのものとなります。

最優秀活動賞受賞グループインタビュー

第41回 UNIRITA ユーザーシンポジウムにて、最優秀活動賞を受賞された
IKOK01 研究グループの皆様に、表彰式後、受賞インタビューをさせていただきました。



Q1 最優秀活動賞を受賞した感想を教えてください。

まずはやっぱり本当に率直に嬉しいなという気持ちが一番大きいです。昨年度も研究会に参加して最優秀活動賞を目指してたのですが、惜しくも審査員特別賞ということで表彰式で一番最初に名前を呼ばれてしまって、すごく悔しい思いをしました。

今年一年はより強い気持ちで取り組んできたので、一番最後に名前を呼んでいただいた最優秀活動賞が受賞できましたので、本当にもう頑張ってきた甲斐があったなと思いました。ありがとうございました。

Q2 最優秀活動賞受賞につながったのはどこだと感じますか。

生成AIツール(ChatGPT)のAPIを組み込んだ社内教育システム“AI SENSEI”を作り上げたことも大きいですが、プレゼンテーションの点数が満点に近い評価を見ると、プレゼン力が一番ダイレクトに伝わったのかなと思います。

Q3 リーダとして1年活動してきていかがでしたか。

リーダーでありながらもあまり関われない期間もありましたが、年齢層バラエティ豊かなメンバが揃う中でも、お互いが支え合ってしっかり一人一人が動いていただいたおかげで、このような賞につながったと思います。本当にメンバの皆さんには感謝しかありません。

Q5 特に頑張ったなと思うところを教えてください。

発表は2人でいい、1人は発表、もう1人は発表に合わせてスライド操作を行いました。1週間前までズレたりしていて、前日も不安でいっぱいでした。2人のタイミングが合わないと伝わらず、違和感を感じてしまうので、間を空けるところや強調したいところも注意して、毎日練習しました。

Q7 来年度参加される方へのメッセージをお願いします。

一番大事なのはチームの結束だと思うので、コミュニケーションを大事にしてもらえればと思います。

Q4 苦労したところを教えてください。

まず、10人という大人数での研究となり、最初のテーマ決めのところからなかなか意見もまとまらない状況で、スタートから不安に思うこともありました。

また、どのように研究を10人で進めていくのが課題となり、最初は研究グループをわけてチームを作ろうかという話もありましたが、結果として10人で一貫してすばらしい研究を行うことができました。ただ、実は12月の冬の全体会で大コケして、平山代表にたくさん指摘をいただきました。そこからメンバみんなて必死に立て直した結果、最優秀活動賞という賞につながって本当にうれしいです。

Q6 研究会活動に参加してよかったなと思うところを教えてください。

今回のテーマが生成AIを活用した業務効率化だったということで、CM動画も生成AIで作ったのですが、最近のツールや技術を知りたい機会にもなりました。

また、各県から集まったメンバで、年代も様々な中で、色々議論を重ねていくという経験がすごくよかったと思います。これからの技術者人生においてすごくいい経験になったと感じます。



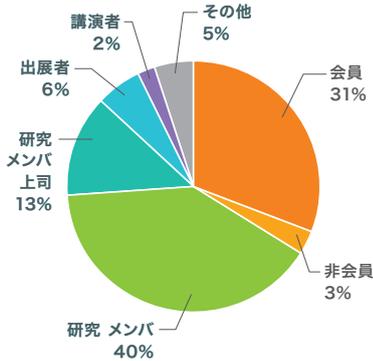


シンポジウムアンケート結果・お客様の声ご紹介！

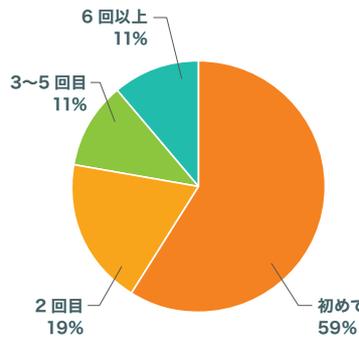
第41回 UNIRITA ユーザシンポジウム参加者アンケートより

シンポジウム実施後に、ご参加いただいた皆様へアンケートのご協力をお願いしました。アンケートの結果と、寄せられたご感想を一部ご紹介いたします。いただいたご意見・ご感想は、今後も皆様に満足いただけるシンポジウムへの運営に活かして参ります。ご回答いただいた皆様、ありがとうございました。

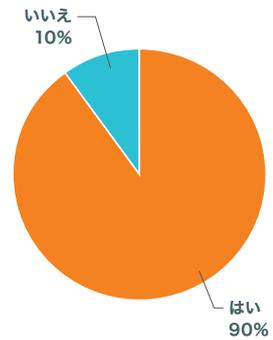
アンケートに回答いただいた方の割合



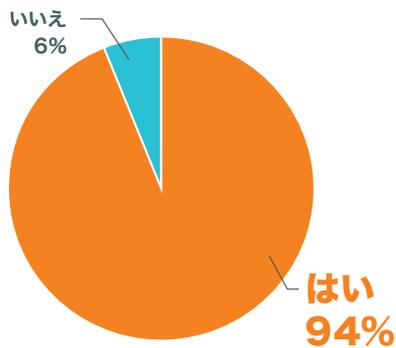
シンポジウムの参加回数は？



またシンポジウムへ参加したいと思いませんか？



シンポジウムを周囲の人に勧めたい・紹介したいと感じますか？



理由

- ITの情報収集に役立つ。他社交流、他業界などの情報収集に役立つ。
- 様々な企業との交流を経て、成長できる場面が多くあると感じたため。
- 特に若手の成長の機会として有効であると感じています。
- 通常のセミナーより交流が濃いです。
- 世代や会社が違うメンバが1年間の研究活動を経て結束力を高めていく姿を見て欲しい。
- ITは若手がクローズドな業務環境になりがちなので、部下などに1対Nの交流も経験させたいと感じた。
- 良い企業の人ばかりなので流行りの「越境」するのに敷居が低い。
- 学ぶことが多く、研究部会参加メンバの発表や表彰式など、その場でリアルに体験させていただくことに価値を感じるため。

90%以上の方に、シンポジウムへ魅力を感じていただいています！

シンポジウムの良かった点・ご感想

- レベルの高い発表があり、いい刺激を受けた。
- 大きな舞台に立って、自分たちの研究発表ができた時の喜びはなかなか経験できないものだと感じました。
- トレンドのテーマが多く、情報収集できたとともに熱意あふれた発表に感動しました。
- たくさんの人が下の世代の成長を願って行動しているということを感じられたこと。
- さらなる人脈形成、情報を得ることができた。
- プログラム案内の分かりやすさ、参加者の一体感、熱気があり非常に刺激的だった。
- 実際の導入事例や活用事例が紹介され、実務に役立つ知見を得られた。

部下の方を研究部会へ参加させたご感想（上司の方へお聞きしました）

- 普段中々交流が無い他社のメンバと一体となって活動できることのすばらしさを感じた。
- プロジェクトマネジメント側に立つ機会が得られ、仕事へ良い影響となった。業務時間内に研究会の時間を捻出してあげるサポートが重要。
- 入社2年目の若手を参画させたが、考え方の幅が広がったと感じた。
- 研究内容や業務都合をつけることなどに苦労はしていましたが、とても有意義な約1年間だったようです。

2025年度 UNIRITA ユーザ会研究部会 研究グループ一覧！



今年度、研究部会活動を行う全研究グループが確定いたしましたので、速報でご紹介します！研究テーマおよび研究概要を要チェック！一年を通して活動していく研究メンバの皆様の今後に乞うご期待ください。
※研究テーマ名は、活動の過程で変更となるケースがございます。

東日本地区

情報活用

これからのIT

参加者は情報システム部やITベンダーのマネジメント層の方が対象です。ITの課題に対する最新技術による解決策や導入実績を相互に提供し合う、会社を離れた情報交換の場を提供していきます。また、メンバの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。本研究グループは複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。

情報活用

AI時代に必要なデータガバナンス

生成AIの進化が加速する中、ビジネスでの活用が広がる一方、学習データの質とガバナンスの重要性が増しています。本研究グループでは、AI時代に求められるデータガバナンスの理想像を探求し、より公平で信頼性の高いデータ活用の在り方を研究します。

情報活用

「2025年の崖」を迎えた変化

日本企業が市場で勝ち抜くためにはDXの推進が必要不可欠として「2025年の崖」という表現で注意喚起されましたが、2025年を迎えた今、各企業での対応状況や変化を検証し、今からでも回避できる方法を研究します。

情報活用

データドリブン経営の実現

消費者行動の多様化が進む中、データを活用した経営の重要性が高まっています。本研究グループでは、膨大なデータを分析し、行動予測を経営に活かすデータドリブン経営の実現方法を研究します。

情報活用

生成AIとエンジニアの共存

生成AIの進化により、エンジニア業務の一部が代替されつつあります。これからの時代、エンジニアにはどのようなスキルが求められるのか？業務の棲み分けやAIの活用方法を探り、エンジニアの将来像を研究します。

情報活用

システム開発における画像生成AI活用

生成AIの進化により、コード生成だけでなく図の作成も可能になり、設計業務への活用が期待されています。本研究グループでは、構成図などの設計書作成における画像生成AIの活用範囲や効果的な利用方法を研究します。

情報活用

農業分野におけるIT活用

少子高齢化や担い手不足が進む中、農業の効率化が急務となっています。IoTやAI、リモートセンサーなどのIT技術がもたらす変化に注目し、農業分野を支援する技術の活用方法を研究します。

情報活用

令和時代におけるサイバーセキュリティおよびBCP対策

デジタル化の進展に伴い、サイバー攻撃はますます高度化・複雑化しています。令和時代の企業には、セキュリティ強化とBCP策定が不可欠です。本研究グループでは、サイバー攻撃への対応策や業務継続を可能にするBCPの構築方法を研究します。

情報活用

人とコンピュータの相互作用

UI、UX、デザイン思考など、ユーザビリティを重視した開発の必要性が高まっている中、多様なデバイスの利用も進んでいます。本研究グループでは、人とコンピュータの間に生じる「相互作用」に焦点を当て、その効果的なデザインと体験の向上について研究しています。

情報活用

健康・福祉を支援するテクノロジー

SDGs目標3「すべての人に健康と福祉を」の実現に向け、世界中でさまざまな取り組みが進められています。本研究グループでは、ITを活用した健康・福祉を支援する取り組みについて調査し、その可能性について研究します。

システム運用

運用管理事例

参加者は、情報システム部やITベンダー、メーカーのマネジメント層の方を対象とします。ITの課題に対する最新技術による解決策や参加企業を含めた様々な業態の導入事例、実績を相互に提供し合う、会社を離れた情報交換の場を提供していきます。また、メンバの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバへの支援を行います。本研究グループは複数年参加を基本とし、研究や発表というスタイルを取りません。

システム運用

引継ぎレスの実現

運用業務の引継ぎは、多くの企業にとって長年の課題です。従来の研究では「ドキュメント整備」や「QJTの改善」が主な解決策でしたが、本研究グループでは、より効率的な方法や引継ぎそのものを不要にする可能性を研究します。

システム運用

セキュリティリスク対策の運用最前線

ランサムウェアの脅威が常に存在する中、脆弱性を定期的に見極め対応することが不可欠です。本研究グループでは、他社の事例や金融庁の情報を分析し、運用の観点から効果的な脆弱性確認の方法を研究します。

システム運用

脱インシデント対応！ ～障害・問い合わせを根本からなくすには～

インシデント対応は常に課題であり、これまで対策が検討されてきましたが、根本解決には至っていません。本研究グループでは、障害や問い合わせを根本からなくすことをテーマに掲げ、持続的な解決策を研究します。

システム運用

限られた人材で実現する持続可能な業務運用

日本では労働人口の減少が深刻な課題となっています。本研究グループでは、人材不足のリスクにどのように対応すべきかを考察し、限られた人材を活用しながら業務を安定的に継続するための具体策を研究します。

システム運用

パブリッククラウド活用による運用効率化

企業はこれまでオンプレミスやプライベートクラウドを用途に応じて活用してきましたが、パブリッククラウドの運用も重要性を増しています。本研究グループでは、運用現場の効率化やクラウド採用時の注意点をテーマに研究します。

研究活動の流れ【主な活動とスケジュール】 予定は変更される可能性があります。

5月

春の全体会

研究活動のキックオフとして全国で春の全体会を開催します。全体に対してオリエンテーションを行ったあとは、グループごとに分かれて初回の会合を行います。これから1年間、一緒に研究活動を進めていくメンバ、コーディネータと初めての顔合わせです。自己紹介や今後の進め方などを決めていき、研究活動がスタートします。

	開催日	会場
東日本	2025年5月23日(金)	TKP赤坂カンファレンスセンター
中部	2025年5月22日(木)	ウインクあいち
西日本	2025年5月28日(水)	TKPガーデンシティ大阪 リバーサイドホテル
九州	2025年5月30日(金)	TKPガーデンシティ博多新幹線口

7~8月

宿泊

日帰りや1泊2日での合同合宿を開催します。何にも邪魔されない環境で研究テーマの深掘りや議論に集中でき、メンバとの親睦も深まりますのでぜひご参加ください。

西日本地区

合同

業務変革とIT活用

企業におけるITの重要性は、経営からの要求が増大するにつれて年々高まっています。人材不足を補うためのデジタルツール導入による業務効率化が進む一方で、セキュリティ強化やコスト削減など、経営者からは効率的なIT投資が求められています。また、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進に伴い、社員のワークライフバランスの向上や組織の変革といった多様な課題にも直面しています。本研究グループでは、参加企業の人材不足対策やビジネス部門との連携強化、コスト管理やROI(投資対効果)の評価などについて、情報交流を中心に活動を進めていきます。

合同

AIに任せる日常業務 ～自動化による

ビジネス効率化の新常識～

近年、多くの企業がAI(人工知能)を活用して業務の自動化を進めています。AIを使うと、人が手作業で行っていた作業をより早く効率よく進めることができます。AI活用にあたり、AIがどうやって判断しているのか、そのプロセスを理解することは非常に重要であり、企業がAIを安心して使えるようになります。本研究グループでは、AIツールやワークフロー自動化ツールを使って実際の仕事に適用してみます。あなたの部署の業務の悩み、AIで解決できるかも! AIツールを活用した新しい働き方を、みんなで一緒に見つけていきませんか?

合同

AI拡張型開発による 次世代システム構築の新潮流

AI拡張型開発の研究を通じて、AIを用いた設計、プログラミング、コード生成、バグの検出と修正、開発作業の予測といった、具体的なタスクを支援する方法の研究を行います。開発者にとっては、AIでは難しく複雑で創造的な問題解決に集中できる環境の実現を目指します。

合同

サービス管理を快適に ～ITSMツール最適化で 業務を加速～

ITサービスマネジメント(ITSM)は、ITサービスの提供と管理を効率化するために不可欠なフレームワークです。多くの企業ではITSMツールを活用していますが、操作性や使い勝手に課題があることが多いです。本研究グループでは、ITSMツールのユーザビリティを改善し、効率的な運用管理を実現するための手法を検討します。ITサービス管理の基本的な理解とツールの改良による現実的な効果を学べる研究です。

合同

新時代のデータ活用戦略 ～ガバナンス強化で支える 効率的な業務環境～

デジタル化の進展に伴い、企業が扱うデータの量や種類が飛躍的に増加しています。その中で、データを正確かつ一貫して管理し、適切に活用することは企業の競争力に直結します。データガバナンスは、データを安全かつ効果的に運用するための基盤であり、信頼性の高いデータがもたらす精度の高い意思決定は、業務効率の向上やリスク軽減に寄与します。本研究グループでは、データの透明性と信頼性を確保し、デジタル時代に即したデータガバナンスの最適な手法を探求します。

合同

DX推進の障壁と 成功への道筋 ～まだ進まないのか DX?～

多くの企業がデジタルトランスフォーメーション(DX)の重要性を認識していますが、実際に推進できている企業はまだ少ないのが現状です。特に、経営層の理解不足や推進リーダーの不在、適切なベンダーが見つからないことが大きな課題です。また、DXを成功させるための具体的なロードマップが欠如しているケースも多いです。本研究グループでは、DX推進の障壁を明確化し、現実的な解決策を提案することで、企業が持続的な成長を実現するための道筋を示します。

合同

ヒューマン・コンピュータ・ インタラクション(HCI)の 最適化

～人間とコンピュータの境 界を超えるユーザーエク スペリエンス(UX)～

HCIは、人間とコンピュータが効率的に連携するためのインターフェース設計に関わる分野です。特に、操作性やデザインの微細な変化がユーザーの生産性に大きく影響します。また、音声認識やウェアラブルデバイスの活用も進んでおり、これらの要素を取り入れることでインタラクションの効率をさらに向上させることが可能です。

中部地区

情報活用

AI活用によるIT人材不足へのアプローチ

近年、AI技術はさまざまな分野で活用が進んでいます。AIを活用できればIT人材不足の解消にも繋がる可能性があります。一方、単にAIを導入するだけで本当の意味で人手不足を解消できるかという課題もあります。本研究グループでは、AIによるIT人材不足解決へどのようなアプローチを行えば実現できるか方策について研究します。

システム運用

AI活用による運用品質向上・ 標準化へのアプローチ

昨年、システム運用領域にもAIの活用が目立っています。AI活用の広がりを見せる一方、システム運用業務では人による判断や作業、障害対応や復旧等の業務も多く残っています。本研究グループでは、運用エンジニアの日々の業務に焦点をあて、AIを活用することで、品質向上や標準化が実現できるかについて研究します。

九州地区

合同

HCIを活用した サービスの可能性

HCIとは、ユーザとコンピュータのインタラクションを最適化するための重要な分野で、チャットボットによる音声の受け答えやVR、味やにおい、触覚の出力など、コンピュータと人間をつなぐ手段は広がっています。一方デジタルデバイスやAI技術の普及に伴い、ユーザエクスペリエンス(UX)の向上が求められています。ユーザの多様な特性(年齢や障害の有無など)やニーズに応えるインタフェース設計が難しく、全ての人に配慮したデザインやサービスは十分とは言えません。このような課題を解決するために、HCIの新しい技術を使ったサービスの導入や活用方法について研究します。

研究会活動についての詳細はこちらから



<https://www.uniritauser.jp/activities/>

9~10月

グループリーダ会議

各グループのリーダが集まり、研究活動の進捗を報告します。他グループのリーダや代表・副代表と意見交換することにより、今後のグループ活動をよりよくしていきましょう。

12月

冬の全体会

春の全体会から7ヶ月、それぞれの地区の全グループが一堂に会します。各グループから研究活動の進捗報告、3月のシンポジウムに向けた発表講習などを実施し、研究活動のまとめに臨みましょう。また、全体会後の懇親会では、シンポジウムでの発表枠の抽選も行います。

1~2月

発表練習会

研究活動も大詰めとなり、シンポジウムに向けた発表練習会を行います。他グループや幹事・代表・副代表を前に発表練習を行い、フィードバックを得てさらに磨きをかけていきましょう。

3月

シンポジウム

1年の活動の集大成!シンポジウムで研究発表を行います。有終の美を飾るのは一体どのグループでしょうか!?

2025年度 年間スケジュール (2025年4月～2026年3月)

	2025年 4月	2025年 5月	2025年 6月	2025年 7月	2025年 8月	2025年 9月	2025年 10月	2025年 11月	2025年 12月	2026年 1月	2026年 2月	2026年 3月
研究部会運営会議	4/23(水)							11/5(水)				
幹事会			6/6(金)					11/21(金)		1/30(金)		
意見交換会							10/10(金)					
東日本	情報活用研究部会			合宿 7/11(金)～ 7/12(土)		GL会議 9/19(金)						
	システム運用研究部会	春の全体会 5/23(金)		合宿 7/4(金)～ 7/5(土)		GL会議 9/25(木)			冬の全体会 12/5(金)			
中部	情報活用研究部会											
	システム運用研究部会	春の全体会 5/22(木)			合宿 8/1(金)～ 8/2(土)		GL会議 10/3(金)		冬の全体会 12/9(火)			ユーザ シンポジウム 3/5(木)～ 3/7(土)
	合同研究部会											
西日本	合同研究部会	春の全体会 5/28(水)		合宿 7/4(金)～ 7/5(土)		GL会議 9/11(木)			冬の全体会 12/12(金)			
九州	合同研究部会	春の全体会 5/30(金)		合宿 7/4(金)～ 7/5(土)		GL会議 9/11(木)			冬の全体会 12/10(水)			
マネジメント研究会			●			●		●				
ITゼミナール			●				●					

※マネジメント研究会・ITゼミナールはスケジュール調整中のため、開催日につきましてはユーザ会ホームページをご確認ください。

役員・代表・副代表のご紹介 2025年度のUNIRITAユーザ会役員・代表・副代表の方々をご紹介します。

ご挨拶

平素は、UNIRITAユーザ会活動にご指導、ご協力いただきまして、誠にありがとうございます。UNIRITAユーザ会は、様々な業種やIT環境のメンバが集まる人脈形成の場です。また、他のユーザ会と異なる大きな特徴として、1年を通した研究部会をユーザが主体的に活動してIT技術を研究するとともに、グループ活動を経験することで組織人としての研鑽を深めることができます。そのため、異業種交流の場としてだけでなく、人材育成の場としても活用していただけます。皆様方の積極的なご参加をお願いいたします。

UNIRITAユーザ会会長 後藤 聖央 氏(ソニー生命保険株式会社)

役員

会長
後藤 聖央
ソニー生命保険株式会社



副会長
田中 久子
SOMPOシステムズ株式会社



幹事
河村 優司
さくら情報システム株式会社



幹事(監査担当)
井上 勝
第一生命テクノクロス株式会社



幹事
深沢 修
旭化成アマダス株式会社



幹事
中俣 幸二
株式会社リコー



幹事
澤井 隆慶
出光興産株式会社



幹事
廣瀬 真一
ANA システムズ株式会社



幹事
水野 泰宏
日東工業株式会社



会計幹事
野村 剛一
株式会社ユニリタ



幹事
佐伯 寿雅子
株式会社ユニリタ



研究部会代表

東日本情報活用研究部会代表
田中 豊久
株式会社匠 BusinessPlace



東日本システム運用研究部会代表
寺門 美紀
MS&ADシステムズ株式会社



中部情報活用・
中部合同研究部会代表(兼任)
山口 聡
株式会社ダリヤ



中部システム運用研究部会代表
杉本 浩彰
株式会社トヨタシステムズ



西日本研究部会代表
小玉 博樹
小浦石油株式会社



九州研究部会代表
平山 幸夫
西鉄情報システム株式会社



研究部会副代表

東日本情報活用研究部会副代表
中尾 祐生
旭化成アマダス株式会社



東日本システム運用研究部会副代表
山縣 政宏
日販テクシード株式会社



東日本システム運用研究部会副代表
中村 寿昭
出光興産株式会社



東日本システム運用研究部会副代表
田中 彰
リコー IT ソリューションズ株式会社



西日本研究部会副代表
西洋一
株式会社KYOSO



西日本研究部会副代表
山中 正人
大和リース株式会社



情報交換のための研究活動

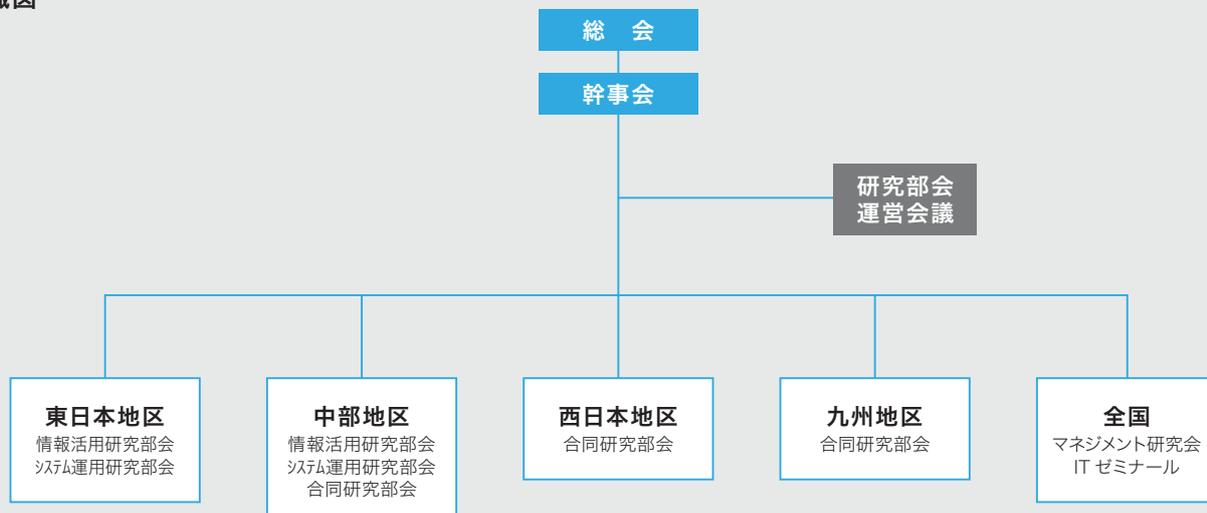
マネジメント研究会会長
澤井 隆慶(兼任)
出光興産株式会社

ITゼミナール代表
中俣 幸二(兼任)
株式会社リコー

UNIRITA ユーザ会の組織と活動について

今後も、当ユーザ会の活動の柱である研究部会活動の内容・レベルの向上、および研究部会活動に参加される方のスキルアップ、情報交流を目的に、さまざまな取り組みを行ってまいります。

組織図



研究活動

1. 地区一覧

地区名	対象
東日本地区	北海道・東北・関東・甲信越
中部地区	東海・北陸
西日本地区	近畿・中国・四国
九州地区	九州・沖縄

2. 研究部会活動内容

各研究部会では、1年間を通じてテーマごとに研究グループ活動を行い、ユーザシンポジウムで研究成果を発表します。また、ユーザ相互の情報交換・技術交換を目的とした全体会を各地区毎に実施し、親睦を深めるための懇親会を行います。

研究部会名	内容
情報活用研究部会	あらゆる情報をビジネスの中に効果的に活用する方法や技術・事例をテーマにした研究グループ活動。
システム運用研究部会	ビジネスに貢献するITサービスの実現に向けたシステム運用に関する技術・事例をテーマにした研究グループ活動。
合同研究部会	情報活用研究部会とシステム運用研究部会が連携して協力する技術・事例をテーマにした研究グループ活動。

3. 情報交換のための研究活動

名称	内容
ITゼミナール	話題となっているIT技術・業務革新動向をテーマとした講義あるいは、討議・情報交換を行う。また、1つのテーマを小人数の同一メンバーで2~3回に渡り討議・情報交換するための勉強会を行う。
マネジメント研究会	全国の部門長・マネージャクラスの方々を対象に、マネジメントの立場から見た情報システムにまつわる最新の話題を幅広く取り上げ、情報交換を行う。

上記のほか、会員に有益となる企画を随時開催しています。

会員企業一覧 (2025年5月9日現在、266社)

あ行

株式会社アークスシステム
株式会社アーク情報システム
アース製菓株式会社
愛三工業株式会社
アイシーエクスプレス株式会社
アイチ情報システム株式会社
ITプロダクト株式会社
株式会社アイネステクノロジーズ
株式会社アイネスリレーションズ
株式会社アイネット
旭化成株式会社
旭化成アミダス株式会社
旭化成ホームズ株式会社
アツギ株式会社
株式会社アテランス
株式会社アトラスシー
株式会社アド・ダイセン
アメリカンホーム医療・損害保険株式会社
アリストハルスアンドニュートリションサイエンス株式会社
株式会社安藤・間
株式会社飯田
いすゞシステムサービス株式会社
出光興産株式会社
伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
イトキン株式会社
稲畑産業株式会社
株式会社イノベックス
株式会社インタートレード
株式会社インフォセンス
株式会社インフォテクノ朝日
インフォメーション・システム・サービス株式会社
株式会社ウイズ
エア・ウォーター・ソフテック株式会社
AIGテクノロジーズ株式会社
AJS株式会社
ANAシステムズ株式会社
AGS株式会社
AGSプロサービス株式会社
エース株式会社
auカブコム証券株式会社
エアアイエス・テクノサービス株式会社
SCSK株式会社
SBSリコーロジスティクス株式会社
株式会社SYSホールディングス
NECソリューションイノベータ株式会社
NSW株式会社
株式会社NSP
株式会社エヌジェーケー
株式会社エヌ・ティ・ティ・データCCS
株式会社KNT-CT・ITソリューションズ
株式会社荏原製作所
株式会社エムアンドシーシステム
MS&ADシステムズ株式会社
小浦石油株式会社
株式会社オージス総研
株式会社オカムラ
岡谷鋼機株式会社
岡谷システム株式会社
株式会社オブテージ

か行

カゴメ株式会社
カシオ計算機株式会社
片倉工業株式会社
神奈川トヨタ自動車株式会社
株式会社カネカ
カンコ株式会社
株式会社紀伊屋書店
株式会社ギフトベッド
岐阜プラスチック工業株式会社
Qso!株式会社

京セラ株式会社
京セラコミュニケーションシステム株式会社
株式会社KYOSO
株式会社関電システムズ
近鉄情報システム株式会社
株式会社クイック
株式会社クエスト
株式会社熊谷組
株式会社クロスコーアイエス
株式会社K-BIT
小岩井乳業株式会社
興安計装株式会社
コープデリ生活協同組合連合会
株式会社コーユービジネス
国分グループ本社株式会社
コスモエコパワー株式会社
コスモエネルギーホールディングス株式会社
コニカミノルタ株式会社
コベルコシステム株式会社

さ行

西部ガス情報システム株式会社
サイボー株式会社
さくら情報システム株式会社
サブプログループマネジмент株式会社
三菱アプリ株式会社
サンキン株式会社
サントリー-MONOUZUKURIエキスパート株式会社
株式会社サンロジスティクス
株式会社シーエーシー
株式会社CACオルビス
株式会社Cスタジオ
CTCシステムマネジメント株式会社
株式会社JSP
JX金属株式会社
株式会社滋賀県農協電算センター
静岡ガス・システムソリューション株式会社
システムアクティベーション株式会社
株式会社システムエグゼ
システムクリエイト株式会社
株式会社システムフロンティア
シチズン時計株式会社
株式会社シティアスコム
情報技術開発株式会社
信連ビジネスセンター株式会社
スガキシステムズ株式会社
寿がきや食品株式会社
株式会社スターシステム
株式会社ストラテジット
生活協同組合連合会東海コープ事業連合
セICOグループ株式会社
株式会社セイノー情報サービス
生和コーポレーション株式会社
ゼリア新薬工業株式会社
株式会社全農ビジネスサポート
宗教法人創価学会
ソニー生命保険株式会社
ソニーペイメントサービス株式会社
株式会社ソニックス
株式会社ソフトウェア・パートナー
損害保険料率算出機構
SOMPOシステムズ株式会社
SOMPOひまわり生命保険株式会社

た行

第一工業製菓株式会社
株式会社第一コンピュータリソース
第一生命テクノクロス株式会社
第一生命保険株式会社
ダイキン工業株式会社
ダイキン情報システム株式会社
大建工業株式会社

大樹生命アイテクノロジー株式会社
株式会社ダイショー
ダイハツ工業株式会社
株式会社ダイハツビジネスサポートセンター
株式会社ダイフク
タイヘイ株式会社 印刷事業部
大鵬薬品工業株式会社
太陽生命保険株式会社
大和リース株式会社
株式会社タカインフォテクノ
タキイ種苗株式会社
株式会社匠 Business Place
株式会社ダリア
株式会社ダリアヤ
株式会社中電シーティーアイ
中部テレコミュニケーション株式会社
月島ホールディングス株式会社
都築電気株式会社
TIS株式会社
TISシステムサービス株式会社
TISソリューションリンク株式会社
株式会社THS
株式会社DXコンサルティング
TDIシステムサービス株式会社
TDIプロダクトソリューション株式会社
有限会社ディアイビィ
株式会社帝国ホテル
株式会社データ総研
データ・マネージメント株式会社
デジタル・インフォメーション・テクノロジー株式会社
株式会社テックキーズポッド
株式会社デンソー
株式会社デンダ
株式会社電通総研セキュアソリューション
東亜建設工業株式会社
東海EC株式会社
株式会社TOKAIコミュニケーションズ
東京システムハウス株式会社
株式会社東計電算
東芝デジタルエンジニアリング株式会社
東洋アルミニウム株式会社
東洋カーマックス株式会社
東洋熱工業株式会社
東洋紡株式会社
株式会社トーカン
株式会社トーハン・コンピュータ・サービス
株式会社トヨタシステムズ
トヨタ情報システム愛知株式会社
豊田通商システムズ株式会社
株式会社豊通シコム
株式会社トレードワークス

な行

株式会社ナイス
ナカバヤシ株式会社
南海システムソリューションズ株式会社
株式会社西出自動車工作所
西鉄情報システム株式会社
西日本自動車共済協同組合
日軽情報システム株式会社
株式会社日経統合システム
日研システム株式会社
日興システムソリューションズ株式会社
日清オイリオグループ株式会社
ニッセイ情報テクノロジー株式会社
株式会社ニデック
日鉄ソリューションズ株式会社
日東工業株式会社
日販テックシード株式会社
日本機械工業株式会社
日本精線株式会社
株式会社日本総合研究所

ニッポンレンタカーサービス株式会社
日本調剤株式会社
株式会社日本ビジネスアータープロセシングセンター
ネクストウェア株式会社
株式会社ネットサービス・ソリューションズ
ネットワークシステムズ株式会社
株式会社ノビア

は行

パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社
パナソニックソリューションテクノロジーズ株式会社
株式会社ビーエスピーソリューションズ
株式会社ビー・ビルシステムズ
株式会社ビジネスコンサルタント
日立建機株式会社
株式会社日立ソリューションズ
株式会社日立ビルシステム
株式会社ビデオリサーチ
株式会社ヒューアップテクノロジー
株式会社ファンラン
株式会社フィックスポイント
株式会社ふくや
株式会社フジシステムズ
株式会社フジテレビジョン
株式会社フジミック
ブラザー販売株式会社
株式会社ブラネット
ブリヂストンソフトウェア株式会社
株式会社ブロード
北陸コンピュータ・サービス株式会社

ま行

松尾産業株式会社
美津濃株式会社
三井食品株式会社
三菱女子紙販売株式会社
三菱ケミカル株式会社
三菱総研DCS株式会社
三菱UFJインフォメーションテクノロジー株式会社
株式会社無限
村田機械株式会社
明治産業株式会社
株式会社メイテツコム
モリリン株式会社

や行

山崎製パン株式会社
ヤマザキマザック株式会社
株式会社山櫻
ヤマハ株式会社
ヤンマー情報システムサービス株式会社
ユニチカ株式会社
株式会社ユニリタ
株式会社ユニリタプラス

ら行

株式会社LIXIL
株式会社リコー
リコーITソリューションズ株式会社
リコージャパン株式会社
リゾートトラスト株式会社
株式会社リンクアット・ジャパン
株式会社リンクレア

わ行

株式会社YE DIGITAL
YKK AP株式会社

UNIRITAユーザ会へ入会しませんか？

入会のお申し込みは当会 Web サイトにて受け付けております。
以下の URL にアクセスし、必要事項を入力の上、お申し込みください。
入力項目についてご不明な点やご質問がございましたら、
UNIRITA ユーザ会事務局 usergrp@unirita.co.jp までご連絡ください。

入会
お申し込みは
コチラ

<https://www.uniritauser.jp/about/users-group-apply/>



QRからも
アクセス
できます

【 非会員の皆様へ 】

入会資格 ユニリタグループが提供するソフトウェア・プロダクトおよびサービスを利用している企業および団体

年会費 ¥30,000- /社 (1～12月分)

【 ご入会いただくと 】

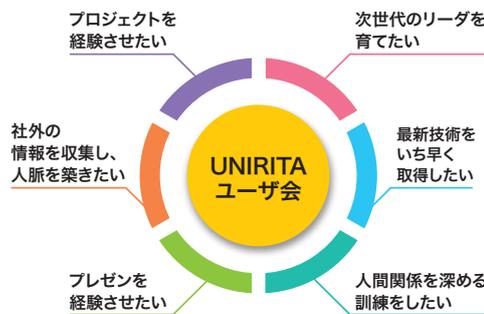
研究活動・ITゼミナール・マネジメント研究会
などにご参加いただくことができます。

これらの活動を通じて業界の垣根を越えた人脈形成や、IT従事者として成長する事ができます。

一般的に「ユーザ会」と言われる団体では、ユーザ相互の親睦を深めることを目的とした場合が多く見受けられますが、UNIRITA ユーザ会は「若手育成」「ユーザ主体」が大きな特徴です。

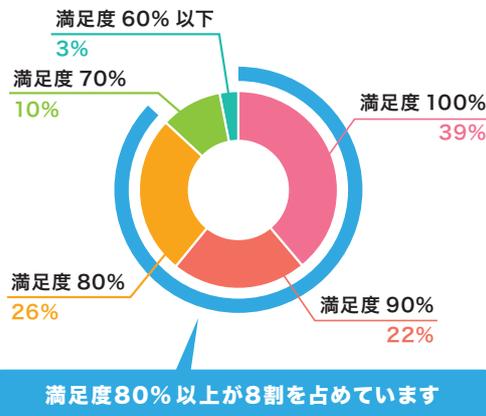
図のような会員企業様からの要望に対し、ユニリタからの情報提供ではなく、あくまでも参加者主体の研究活動や情報交換会を実施し、IT技術だけでなく、人材育成に重点を置いた研究部会を運営しています。

● 研究活動への参加目的と効果



2024年度の研究活動に実際に参加された研究メンバ様へ ユーザ会の研究活動についてお聞きしています。

研究部会に参加して良かったですか？
(※満足度をパーセントで回答)



● 研究活動を通して身に付いたと感じるスキル

- コミュニケーション力、エンゲージメント力
- プレゼンテーション力
- プロジェクトマネジメント力
- スケジューリング力
- 資料作成スキル
- プレゼンスキル
- etc...

● 研究活動へのご感想

- 社外の方との交流の機会ができるのが大きなメリットだと思います。
- 1年間の活動を通じて他社の方との交流や自身の知見、スキルアップにつながる良い経験ができました。
- 普段の業務では関わることのない他部門の方々と協力しながら学べたことが非常に有意義でした。また、実践的な課題に取り組むことで、業務への応用も考える良い機会になりました。
- シンポジウムという大規模の場で発表をするという経験は新鮮かつ刺激になり、この研究活動を通して大きく成長できたと感じます。
- 自身だけではなく、社内の別の人間の成長の機会に是非利用させていただきたいと考えています。



UNIRITA Users' Group

UNIRITA ユーザ会ニュース No.67 発行日：2025年5月20日